

## 令和元年度横須賀市精神保健福祉連絡協議会会議録

- ・ 日 時 令和元年12月12日（木）午後4時00分から午後5時00分まで
- ・ 場 所 横須賀市保健所 第1研修室
- ・ 出席者 磯野千里、加藤幸次、木村充、後藤健一、小林正稔、佐々木美保子、  
下江秀雄、重城真知子、高屋淳彦、田口恵子、田中知己、中島大昌、  
中野浩志、橋本健司、山野井徹、吉田勝利、脇範泰（敬称略、五十音順）
- ・ 事務局 山岸哲巳 : 健康部長  
小林利彰 : 保健所長  
小菅俊彦 : 保健所健康づくり課こころの健康係長  
増田浩子 : 保健所健康づくり課こころの健康係主査  
菅祐太郎 : 保健所健康づくり課こころの健康係  
井手山恭子 : 保健所健康づくり課こころの健康係

### 1 開 会

### 2 健康部長のあいさつ

### 3 傍聴者4名の報告

### 4 自己紹介 欠席者5名 新構成員の紹介

### 5 議 事

座長が議事を進めた。

#### 座長

議事（1）横須賀市の精神保健福祉の現状について、事務局及び障害福祉課へ説明を求めた。

## 事務局

資料1に基づき説明をした。

## 山野井構成員

相談支援体制、グループホーム等について説明をする。相談支援事業所20ヶ所のうち、4ヶ所が障害者相談サポートセンターであり、精神・身体・知的障害の3障害の各種相談を受けている。

今年の2月に市長が施政方針で以下について発表したが、今年度、新たに西地区に障害者相談サポートセンターを設置し、市全体で5か所にする。事業者はプロポーザル方式で決定し、令和2年1月から武で事業を開始する。基幹相談支援センターは、令和3年1月の開所を目指している。

グループホームは資料1では17ヶ所とあるが、今現在若干増加している。グループホームは、9割9分を知的・精神で占めている。最近、精神のグループホームが増加している。精神障害者の方の利用傾向としては、終の棲家というわけではなく、安定した生活を送るための一時的な利用が多い。理由としては、退院後に社会的に慣れるためや、家族調整等がある。今のところ定員に対しては若干余裕がある状況。

## 座長

説明について質問はあるか。

## 佐々木構成員

障害者相談サポートセンターが西地区に決定したとのことだが、名称やどこの事業所が受けるのか発表はできないのか。

## 山野井構成員

法人は特定非営利活動法人ピースフルライフ。名称は、ピーストーク障害者相談サポートセンター。12月の市議会でも報告し公表している。

## 座長

グループホームは、だいたいどれくらいまで増えていく予測か。

## 山野井構成員

最大数は決めていない。年間5つくらい増える見込みで考えている。今年度は5つから7つ増えるのではないか。

後藤構成員

医療機関や福祉施設の名称や場所が一目でわかるマップは存在するか。  
そういったものがあると非常にいいと思う。

事務局

一覧表はある。マップはインターネットで閲覧可能である。

座長

マップが保健所の入り口等に掲示してあるといいと思うので、検討いただきたい。

座長

議事（2）措置入院者の退院後支援について事務局へ説明を求めた。

事務局

資料2に基づき説明をした。

座長

この件について、質問はあるか。

質問や意見はないようなので、今後の流れに注視していきたい。

座長

議事（3）横須賀市の取組報告及び意見交換について事務局へ説明を求めた。

事務局

資料3に基づき説明をした。

資料4について、パワーポイントで説明を行った。精神保健福祉実務者連携会議の検討内容とあわせて、長期入院者について、国と比較した横須賀市の現状について報告をし、構成員の意見を求めた。

座長

入院からの地域移行よりも地域での生活に重点をおいた施策展開というのはいかかということであった。構成員の方から質問や意見はあるか。

中島構成員

長期入院者は少ないかもしれないが、私自身が長期入院した後に感じたことだが、この後の就労移行などを考えると、就労移行の施設が藤沢市に比べて少ないと感じて

いる。そうしたところにも力を入れてほしい。

座長

障害福祉課の担当になると思うが、就労移行についてはどのように考えているか。

山野井構成員

数自体は少ないが、非常に力をいれているところではある。社会福祉審議会の障害者の部会では、今年度と来年度は就労について検討していくことになっている。障害福祉課として、そうしたところに焦点をあてて検討している。

座長

ほかの構成員の方、何かないか。

中野構成員

精神保健福祉実務者連携会議に参加させてもらった。退院促進により長期入院者はだいぶ減ったのではないかと思われ、裏付けの数字により減少していることを確認できた。考え方が分からないところがあるが、4病院で900床のうち、入院している方が232人と25%位になる。そう考えると、少なくはないのかなという気もする。横須賀市民でない人も入院しているから、人口対でみたほうがいいのか。

事務局

資料の数値は、横須賀市の住民の方で比べている。横須賀市民の入院先では、三浦市の福井記念病院が多くを占めている。県や国のレベルで退院促進を考えると地域ごとの医療機関の所在地でみていく必要があるが、私たちは、今のところ横須賀市民の支援をと考えている。そうした意味で示した資料である。

中野構成員

今後、認知症が増えると思うが、そうすると長期入院が増えるのか。また介護老人施設やグループホーム等、受入れ先の問題が絡んでくると思うが、どう予測しているのか。

また、在宅支援としてヘルパー等の計画相談を行う事業所に頼もうとしても手一杯と言われ、頼める事業所が少ないと聞く。その充実はどうか。

山野井構成員

私からは計画相談の事業所についてお話しする。指定特定の相談事業所が不足気味であるため、増やしていきたいと考えている。特に人材の部分、相談員が少ない。

そこをどうにかしていきたいというのが、ここ数年の懸案事項。予算措置も考えているが、思うように進んでいない状況。障害者相談サポートセンターでの計画相談を多くしているが、事業の整理をして、できるだけ指定特定の方で、計画相談の困難ではないもの、複雑ではないものを担ってもらい、困難で複合的な事例は障害者サポートセンターでと、明確に区分けはできないが事業の整理をしていく方向ですすめている。

#### 田中構成員

認知症については、横須賀市の高齢化率が毎年1%近く増えている状況で、絶対数が増えるので、ここ数年間は認知症の患者は増えると考えている。基本的なスタンスとしては、湘南病院にもご協力頂いているが、なるべく早期受診、服薬等で在宅生活を継続できる体制を考えている。

その中でも重篤になった場合、入院等も必要になることもあると思うが、基本的には、在宅、地域、医療機関、ヘルパー、ケアマネージャーの協働の中で、早期退院、安定した生活を目指していきたい。

ただ自宅で過ごせない方については、グループホームなども用意している。横須賀市全体の経費や人員等の中で、どれが効率的かと3年ごとに計画を作らせていただいている。その中で、なるべくご自宅で過ごせることを目指して見直しをしている。

#### 座長

ほかに質問や意見はあるか

入院については、他都市でも長期の方は意外と市外に多い。市外から慢性入院して、結果的に退院できないという状況になる。そうした方たちや病院の方に意見を聞くと、市外の方だと来てくれない、という話を聞く。横須賀市はどのような体制をとっているのか聞きたい。

#### 事務局

積極的にしているとは申し上げにくい。病院からの依頼があれば、遠くでも支援させてもらっている。資料1横須賀市民が市外にどれくらい入院しているかを示しているが、県外に10名強の方がいる。そうした病院から退院に向け相談させてほしいという依頼はきていないという状況。

#### 座長

横須賀市に帰ってきた時でもいいが、在宅支援の強化ということを積極的にお願いしたい。

もう一点、中野構成員からもあったが、高齢者の問題や精神に限らず、児童、福祉、

包括ケアということなので、例えば、相談員の人材不足であることをふまえる中で、実は、高齢者の方も人材不足、どこも人材不足ということで、きちっと相談支援する人の数が十分とれないということが、はっきり出てきている。

その辺について、例えば、相乗りしていくとか、養育と療育が同じ次元で相談できるように、今までのように分割するという考えではなく、包括してという生活全般に対して支援をするという考え方が、今後あった方がいいのではないかと。

これは意見であるが、人口減少していく中で、専門職の質の問題は気になるが、そこも含めて人材不足は今後も続いていく。公民、役所と言う感覚だけではなく、民間も含めた協働体制を考えていくことが必要ではないかと思う。

精神のところを中心になってやっていくことが、一番近い、全体に関わる要素があるので、ぜひお願いしたい。

基幹相談センターができるのはよいが、たらい回しになるのではという不安がある。基幹相談センターができるのであれば、できる限り、そこに相談すれば何でもできるという体制になってほしいと思う。

#### 座長

ほかに意見がないようなので、議事を終了し進行を事務局にお返りする。

#### 事務局

これをもって閉会とする。事務局より支援者向けの研修会のアナウンスをした。

次回会議は、来年度の開催となる。

今回の意見を参考に、来年度実務者連携会議でも具体的に検討し、来年度のこの会議で提案していきたい。

## 6 閉 会

※この議事録は、構成員等の発言を事務局において要点筆記したものです。